

平成30年11月9日

相生市議会議長
吉田 政男 様

会 派 名 輝相会
代表者名 角石 茂美

出張報告書

政務活動費により視察、研修、要請・陳情活動、会議のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

氏 名	中野 有彦、宮艸 真木、楠田 道雄、三浦 隆利、角石 茂美	
日 程	平成30年11月6日 から 11月8日 まで 3日間	
月 日	視察、研修、要請・陳情活動、会議先	視察、研修、要請・陳情活動、会議項目
11・6	北海道苫小牧市	苫小牧市まちなか再生総合プロジェクト（CAP）事業について
11・7	北海道室蘭市	公共施設再編に伴う新たな複合公共施設整備事業について

旅費（5名分）	負担金（ 名分）	合 計（5名分）
446,720円	0円	446,720円



視察、研修、要請・陳情活動、会議の成果

1 苫小牧市まちなか再生総合プロジェクト（CAP）事業について

（1）事業開始の経緯について

- 若い市民が多い
- 東西に約40kmと長いまち
- 商業環境の変化（郊外型大型店の進出）
- 人口減少が地方のまち、生活に与える影響
- 少子高齢化の影響
- 市を取り巻く社会環境とその変化
 - ・郊外の宅地開発→人口の拡散
 - ・車への依存が大きなライフスタイル
 - ・消費者ニーズの多様化
 - ・販売形態の多様化（特にインターネットビジネス）
 - ・商業者の高齢化（特に中心部の商店街）、後継者不足

（2）事業内容

- 総合計画のまちづくりの目標「安全、安心で快適に暮らすまち」を実現するための個別計画の一つ
- 人口減少と超高齢社会に対応できる「持続可能なまちづくり」を目指す、市独自の計画
- 平成23年「CAP1」、平成26年「CAP2」、平成29年3月末「CAP3」策定

（3）パート1・パート2の成果及び評価について

- 将来を見据えた「持続可能なまちづくり」の必要性
 - ・新たな場所に新たなまちの核を整備するよりも、今あるまちなかの機能をしっかりと守り、拡充させることが効率的
 - ・まちなか再生＝中心街地における人口減少、超高齢社会に対応可能なまちづくりの実現が必要

（4）人材育成及び発掘への取組みについて

- キャッチフレーズ「みんなで創る！明るいまちなか！」
- 子供・若者まちづくり参加推進事業
- 市民参加型の事業推進

（5）今後の課題等について

- 今のところ課題はないようである
- 今後とも市民参加で事業計画をたてる

（資料等添付のこと）

視察、研修、要請・陳情活動、会議の成果

1 公共施設再編に伴う新たな複合公共施設整備事業について

(1) 事業に取り組まれた経緯について

- 耐震性能不足問題（21施設中18施設、施設・機能の集約化）
- 学校跡地の活用（市内随一の商業地の中心である）

(2) 事業内容について

- 耐震性能不足等の課題を抱えた複数の施設・機能を集約すると共に
市民の要望・意見を踏まえた新たな機能を導入した「複合公共施設」
の整備事業

(3) 事業効果について

- まちづくり協議会（市民ワークショップ）で意見集約して整備が出来た
- 中心地の整備についても市民ワークショップで整備が出来た
- 指定管理者の質の向上
- 学校の統廃合についてもスムーズに出来ている

(4) 今後の課題及び取り組みについて

- 事業目的・優先課題の明確化
- 性能発注（要求水準書）のあり方
- 余剰地活用事業について
- 庁内の事業実施体制の構築
- 市民の活動を運用していく
- 管理者委託は15年としている

(資料等添付のこと)